

「多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキング
グループ報告書」の骨子案について

「長周期地震動に関する情報検討会」の下に設置された本ワーキンググループは平成 29 年 3 月より平成 31 年 3 月まで 2 ヶ年にわたり予測技術、利活用方法、利活用にあたっての留意事項などの検討・検証を行い、その成果を報告書にまとめることとしている。

報告書の骨子案を示すので、その内容についてご意見を伺いたい。

(骨子案)

はじめに

- ・本ワーキンググループ(以下、WG)の設置主旨と検討課題を受けて、取りまとの方向性を概観する。検討課題については、以下のとおり。

観測結果の活用を含めた予測情報の利活用促進のため、情報利用者のニーズと予測精度を踏まえたさまざまな利活用方法の検討

多様なニーズに対応する予測のために、建物の構造などを踏まえた予測技術の検討・検証

リアルタイムでの情報提供における課題を抽出するため、実際に予測情報を試行的に提供し、利活用についての検証

・予測情報の提供タイミングと信頼性を踏まえた利活用策の検討

- ・検討を進めるにあたって、利用者側の視点で予測情報の提供タイミングと信頼性の観点から、予測情報を3つのカテゴリで分類したことについてまとめる。
- ・カテゴリごとに想定される情報の種類、提供タイミング、情報の発表単位(予報区、地点、ビル等構造物)と情報の内容等についてまとめる。

・予測情報の利活用方法の検討

- ・検討課題 「観測結果の活用を含めた予測情報の利活用促進のため、情報利用者のニーズと予測精度を踏まえたさまざまな利活用方法の検討」をとりまとめるとともに、取り組み実例を紹介する。

(1) カテゴリごとの利活用について

- ・さまざまな利用環境や分野で想定される利用可能性をカテゴリごとに整理し、情報を利用するにあたっての留意事項について検討・整理した結果についてまとめる。

(2) 取り組み実例

- ・WG 委員から紹介のあった高層ビルのビル管理やエレベータ制御などにおける地震動対策の取り組み実例と課題を紹介する。

・予測技術の検討について

- ・検討課題 「多様なニーズに対応する予測のために、建物の構造などを踏まえた予測技術の検討・検証」について、予測技術について体系的に整理し、とりまとめるとともに、WG 委員より紹介のあった予測技術の開発・適用事例について紹介する。

(1) 予測技術の体系化

- ・ カテゴリー 2 で用いる震源データ、 カテゴリー 3 で用いる観測データ、 それぞれを入力とした場合の出力までの予測の流れについて体系的に整理した内容についてまとめる。

(2) 即時予測技術の開発事例の紹介

- ・ 地点ごとの地震動予測やビルの階ごとの揺れを即時に推定する技術の実例とその利用可能性について紹介する。
- ・ 観測地点と予測ポイントの観測記録から両地点の伝達特性をモデル化し、観測地点で観測した地震動をもとに予測ポイントの地震動を予想する技術等を紹介する。

・ 長周期地震動の予測情報に関する実証実験

- ・ 検討課題 「リアルタイムでの情報提供における課題を抽出するため、実際に予測情報を試行的に提供し、利活用についての検証」として、実際に予測情報を試行的に提供し利活用の検討を行う気象庁と国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）共同の実証実験についてとりまとめる。
- ・ 一般参加者による長周期地震動モニタを利用した実証実験や、委員等が参加している WebAPI を使った予測情報利用の実証実験の実施状況及び課題等を検討及び総括する。

・ まとめ

- ・ 検討課題 ~ について、検討した内容についての主要なポイントについて掲げる。

カテゴリーごとに想定される情報の種類、提供タイミング、情報の発表単位と内容等について整理・検討した。

検討課題 については、さまざまな利用環境や分野で想定される利用可能性をカテゴリーごとに整理し、情報利用にあたっての留意事項について検討・整理した結果についてまとめた。

検討課題 については、震源データ、及び観測データ、それぞれを入力とした場合の出力までの予測の流れについて体系的に整理した内容についてとりまとめた。

検討課題 については、実際に予測情報を試行的に提供し利活用の検討を行う気象庁と防災科研の共同の実証実験の効果・課題と取り組み継続についてとりまとめた。

おわりに

- ・ 本 WG の検討成果を踏まえ、長周期地震動のもたらす被害が軽減・予防できる安全安心な社会や都市が構築されるよう、気象庁は、国民に広く警戒を呼びかける警報の実現に努めるとともに、利用者の多様なニーズに対応できる民間事業者の予測情報の提供サービスの実現に向けて、継続して取り組むものとする。